

○菊地恵一委員長 続いて、無所属の質疑を行います。

なお、質疑時間は、答弁を含めて五分です。中島源陽委員。

○中島源陽委員 それでは、美術館リニューアル整備事業費について伺います。改修内容については八島委員の答弁の中で了解させていただきましたので、その時期的な影響で、開館時期がずれるのかずれないのか、その点をまずお伺いします。

○佐藤靖彦教育委員会教育長 今回の補正予算でございますけれども、現場の精査と物価高騰等によるものでありますので、リニューアル工事の工期には影響はございません。それから樹木の伐採・伐根、市道施設の補修につきましては、美術館本館の工事ではないために、リニューアルオープンのスケジュールに影響はないものと考えてございます。引き続きリニューアルオープンに向けて、しっかりと準備を進めてまいりたいと考えております。

○中島源陽委員 今五本の木の伐採ということがありました。私は、郡山市立美術館に行つたことがあって、美術館に向かっていつたときに庭園の広葉樹の景色のすばらしさに入る前に心の準備ができたなという思いがあります。また、黒川温泉が非常に厳しい時代をどうやって乗り越えたのかという中で、樹木を街路の中にうまく取り入れていって、景観を再生したことが非常に大きな力になつてているということもありました。今の美術館も外周を回つてみると非常に緑豊かな状況になつていて、その中でどの五本の木なのかというのはちょっとここでは分かりませんけれども、でもやはりそうした樹木と一体の景観の力というものが私は非常に重要だというふうに思つてているのです。そういう意味で、こうした御認識と、その五本の木を切つて再移植のようなことは考えていらっしゃるのかどうかお聞きいたします。

○佐藤靖彦教育委員会教育長 今回の樹木でございますけれども、今年仙台市のほうから、美術館敷地内にある樹木の根っこによりまして市道の設備を損傷しているという連絡がございました。その後、六月に対象となる樹木につきまして、樹木の診断医による診断を実施いたしまして、倒木リスクがあるということで今回伐採・伐根が必要であるということとしたものでございます。今回の樹木の伐採に当たりまして、前川建築との関係について確認いたしまして、問題ないということを確認させていただいております。今回リニューアルするに当たりまして、美術館の敷地に樹木がまだありますので、しつ

かり景観も保ちながら準備を進めてまいりたいというふうに考えております。

○中島源陽委員 では、二点目でございます。農業・園芸総合研究所の復旧工事の概要についてお願ひします。

○石川佳洋農政部長 今回の予算計上につきましては、今年三月に発生しました暴風等により被災しましたそれぞれ農業・園芸総合研究所と農業大学校のパイプハウス、あるいはガラス温室、防風ネット等の復旧を行うものとなつてございます。なお、被災した施設につきましては順次応急復旧を行いまして、試験研究や学生の実習への影響は生じないように対応してきたところでございます。現在、復旧に向けた手続について調整を図つているところでございまして、来年一月までに全ての工事が完了する見込みとなつてございます。

○中島源陽委員 災害ということであればそれは順次速やかにということになりますけれども、農業・園芸総合研究所も築五十年を超えて、県の畜産試験場もおおむね五十年。それぞれの宮城県の特徴として、研究機関と農業大学校が併設しているということがあります。いずれ必ず改築の時期が迫つてきているということを考えると、災害の復旧で直すというのは順次の話なのだけれども、やはり一方で、農業の担い手をどうこの大学校を通じて育していくのかということをきちんと据えて、計画的に検討していく必要があると思うのですが、その辺についていかがですか。

○村井嘉浩知事 農業・園芸総合研究所及び農業大学校は時代のニーズに合った新品種等の開発、今後の農業を担う人材の育成・輩出に取り組んでおります。一方で両施設が共有している本庁舎につきましては、確かに五十年を経過しております、これまで耐震工事をはじめ、改修工事を行つてあるものの、老朽化が課題となつております。このことから現在、新たな環境のもとで研究や教育を充実させ、農業現場に貢献できるよう本庁舎の改築に向けた基本的な構想について検討しているところであります。県としては、引き続き施設が担う役割を十分發揮できるように努め、農業の持続的な発展につなげてまいりたいと思います。